

ICT 技術セミナーin 高知「自分ごとにするDX」を開催

総務省四国総合通信局は、四国情報通信懇談会とともに、令和4年11月30日(水)にデジタルトランスフォーメーション(DX)に関するセミナーを開催し、地元企業、大学、自治体、通信事業者などから110名(現地35名、オンライン75名)の参加がありました。

第1部 「図書館でDX」 オーテピア高知図書館

150万冊以上の資料を所有するオーテピア高知図書館のサービスの紹介や図書館の活用方法についての解説のほか、今回のセミナーのために作成いただいたブックリスト(※)のご紹介をいただき、会場にはブックリスト掲載書籍の出前図書館を開設いただきました。

(※)「自分ごとにするDX」ブックリスト(オーテピア高知図書館HPに掲載)

<https://otepia.kochi.jp/dataBooklist/library/202211161730596dmt8x/DX%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AF%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88.pdf>



オーテピア高知図書館(山本様)

第2部 講演1 「腹落ちするDX:導入編～ デジタルによる変革の本質とそのインパクト」

株式会社ソシオラボ 代表取締役 中川 郁夫 氏

『腹落ちするDX』の導入編として、「表面的な捉え方」による「改善・効率化」と「本質観取の捉え方」による「市場破壊」という視点の違いをわかりやすい対比事例によりご紹介いただきながら、「作り方の変革」や「売り方の変革」といった『広義のDX』を超えた「価値の変革」(『狭義のDX』)という考え方についてご講演いただきました。



中川講師

第2部 講演2 「本当のDX はSF 的で未来志向、そしてサイバーパンク」

株式会社DigiDockConsulting CTO/ファウンダー/常務取締役 森 正和 氏

デジタルツインとVR/AR/メタバースにより、現実世界とデジタル世界の境界がなくなりつつあり、将来的には「人の意思決定や組織もデータに過ぎない」といった、SF/サイバーパンクな世界の実現をご紹介いただいた。また、発展途上国が先進国の技術を取り入れてデジタル大国になった事例から「地方発のDXこそIT後進国たる日本の希望である」との考え方についてもご紹介いただきました。



森講師

第2部 パネルディスカッション

コーディネーター ICT 研究交流フォーラム幹事(高知工科大学 特任教授
/ナインレイヤーズ代表取締役社長) 菊池 豊 氏

パネリスト 株式会社ソシオラボ 中川 郁夫 氏、
株式会社DigiDockConsulting 森 正和 氏

コーディネーターと講師2名により、専門家が陥りがちな発想の転換という視点を主に、いかにしてDXの波を乗り越えていくべきか、パネルディスカッションを実施しました。



中川講師、森講師

参加者アンケートでは「DXとはデジタル化ではなく、変形がメインであることを理解した。」「狭義のDXについて、今後俯瞰的な観点を意識しながら取り組みたい。」「デジタルツインやメタバースの応用事例をもっと知りたくなった。」などの声が寄せられました。

四国総合通信局では、地方公共団体、企業、一般の方々に、ICT/IoT利活用に関する理解を深めその取組を進めていただくため、今後もセミナーを開催するなど啓発に努めてまいります。

(主催) 四国総合通信局、四国情報通信懇談会
(共催) オーテピア高知図書館
(高知県立図書館・高知市立市民図書館)
(後援) 四国経済産業局、高知県、四国経済連合会

【お問い合わせ先】

情報通信部 情報通信振興課 089-936-5061



菊池 特任教授

